

ノギリソウ		<i>Achillea alpina</i> L. var. <i>longiligulata</i> H.Hara	準絶滅危惧
			キク科
選定理由	かつて見られた多くの生育地が急激に減少し、個体数も大きく減少しており、更に減少すれば個体群の維持が危うくなり、絶滅する可能性が出てくる。		写真(国立科学博物館) 標本 
形態の特徴	地下茎を横に伸ばし、先に新しい株をつくる。茎は高さ50-100cm。葉は互生し、長楕円状線形、鋭尖頭、長さ6-10cm、幅6-12mm、基部は茎を抱き、縁は細かく羽状に中裂から深裂し、裂片は多数の粗い鋸歯がある。頭花は茎と上部の葉腋から出た枝の先に散房状につき、舌状花と筒状花からなる。舌状花の花冠は白色か淡紅色。		
生態的特徴	日当たりのよい草原や林縁に生育する。花期は7月-9月。		
分布状況	アジアの東部と北アメリカに分布し、日本では北海道と本州にある。岐阜県では中部と東部に記録がある。		
減少要因	開発による生育地の破壊、草原などの草刈りや火入れをしなくなったこと、山草愛好家による採取などが考えられる。		
保全対策	草地の維持と採取の禁止。		
特記事項	残されている標本は少ないが、普通種だったため標本の作製があまり行われなかったものと思われる。しかし、近年はほとんど見かけなくなった。		
参考文献			

文責: 高橋弘